

函館市教育委員会研究モデル校

函館市立上湯川小学校 学級数8 (校長 井田 隆幸)

【学校教育目標】

○明るく やさしい子 (徳) ○たくましく 強い子 (体) ○すすんで 考える子 (知)

【研究主題】 自分の考えをもち、進んで他者と伝え合おうとする子どもの育成

～主体的・対話的で深い学びへとつながる「特別の教科 道徳」の実践～

【研究内容】 道徳の時間における指導方法の工夫

- ・資料提示 (読み聞かせ, 紙芝居, 人形劇, 一枚絵, 映像, 実物, 音楽など)
- ・発問 (基本発問, 中心発問, 補助発問)・書く活動 (道徳ノート, ワークシートなど)
- ・板書 (順接的, 対比的, 構造的)・話し合い活動 (ペア, グループ, 座席配置, ネームプレートの活用など)・表現活動 (動作化, 役割演技など)

【成果 (○) と課題 (▲)】

- 友達と道徳ノートを見合う活動では, 交流を通して多様な考え方に触れ, 自分の考えを広げたり, 深めたりすることができた。
- 友達の発言や板書をメモし, 自分の考えと比較している児童もいた。普段の指導が道徳にも生かされている。
- ▲ あいまいな発問は避け, 明瞭簡潔な発問により, 児童の考えを深めていく必要がある。また, 説明が重なり, 混乱をまねいてしまう場面が見られた。
- ▲ 場面設定が限定的だったので, 多種多様な場面設定を心がけ汎用性をもたせる必要がある。

【実践例】

渡島管内研究指定校・函館市教育委員会研究モデル校公開研究大会で, 本校・高丘小学校・戸倉中学校の3会場にて授業公開を実施した。授業公開は, 3校で内容項目を「A-1 善悪の判断, 自律, 自由と責任」で統一するとともに, 授業の視点も揃え, 本校は第3学年で実施した。

3つの研究の視点について, 以下のような成果と課題が得られた。

【主体的な学びの工夫】

- 自分の立場を明確にするためのネームプレートの活用は有効であった。
- 「善悪の判断」は, 児童が本音で語りやすく, 教師の意図に流され, 正しい答えを言おうとする姿が見られたことから, 道徳的価値について理解を深める指導を充実する必要がある。
- カードの色を変えたり, 別のカードを使用したりすると, 視覚的にとらえやすかった。

【対話的な学習活動の工夫】

- 自分の意見と異なる友達の考えを知ることで, 個々の気づきに広がり生まれた。
- 交流場面では, 「自分と違う考えの人」に制限せず, 自分と同じ考えを含め, いろいろな友達のノートを観ることが大切であった。

【発問の吟味】

- 発問に対し, 児童それぞれの立場での意見が多く出ていた。迷いを素直に表現している児童がたくさんおり, その思いを取り上げて「深める」ことができた。



第3学年 道徳科学習指導案

日 時 令和2年11月13日(金) 第5校時
児 童 函館市立上湯川小学校3年1組19名
指導者 本多 香織

- 1 主題名 「やっぱり、やめよう」 【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】
- 2 教材名 「たからさがし」 (『小学どうとく 生きる力3』日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人はしてはいけないと思いつつも、してしまったり黙ってしまったりと、周囲のことを気にして流されてしまうことがある。節度ある行動をとることができるようになるためには、自分の基準に従って行動しようとする強い心情を養っていく必要がある。

人としてより良い生活を送っていくためには、よく考えて行動することが大切であり、他人がどのようにしようとしても、自分でしっかりと考え行動しようとする態度を養うことが大切である。

(2) 児童の実態について

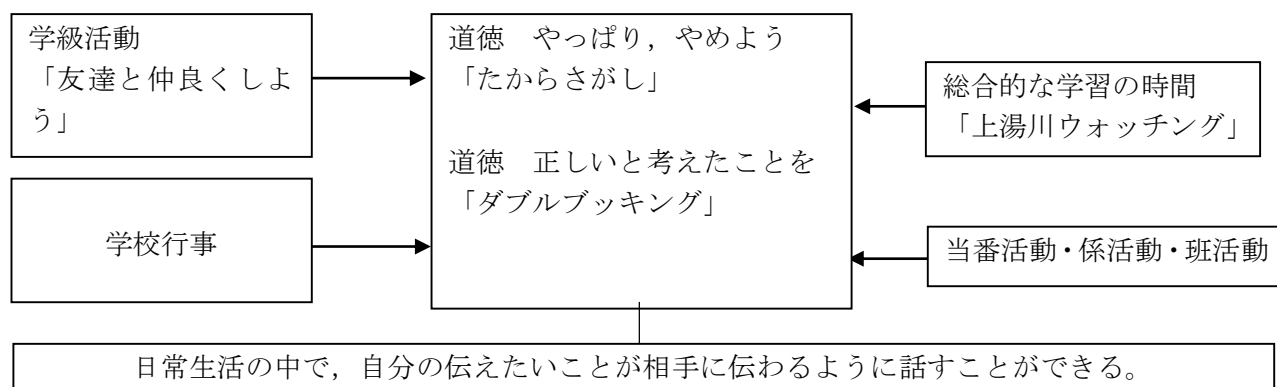
(3) 教材について

本教材は、休み時間の遊びを学級の係が提案した「たからさがし」を行うための準備時間に起こったことが描かれている。

自分たちも行っている係活動や休み時間の出来事として、実生活に結びつけて考えやすい教材ではある。しかし、児童の思考が友達の実名が思い浮かべられ、実際にあったマイナスの出来事を想起しながら進んでしまう可能性もある。

本教材では、実生活の出来事にはあまり深入りせず、自分が「ぼく」の立場だったらどうできるかを考えさせることによって、迷いながらも正しいと判断したことは自信をもって行うことが大切だということを気付かせていきたい。

4 他の教育活動とのつながり



5 授業の視点について

(1) 主体的な学びとなる工夫

日常生活の中で、児童がどのような考えをもっているのかを捉え、導入・終末で児童の実態に即した発問をすることで、より児童の身近な問題として捉えやすいよう工夫を行う。

また、学習の中でネームプレートを活用して自分の立場をはっきりさせることで、より主体的な学びとなるよう工夫を行う。

(2) 対話的な学習活動の工夫

友達と道徳ノートを見合う活動を入れることで、多くの意見に触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 発問の吟味

なぜ、良くないと思ったのかを考えさせることで、より深く「ぼく」の気持ちを考え、自分事として考えられるようにする。

6 本時について

(1) 本時のねらい

迷いながらも正しいと思うことをしようとした「ぼく」の気持ちを読み取り、「自分だったらどうするか」と自分事として考えることを通して、正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を養う。

(2) 本時の展開

過程	学習内容 (○), 主な発問 (●), 予想される反応 (・)	留意点 (・), 評価方法 (※)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「たからさがし」の前半部分を聞く。 ● 「やめたほうがいい」と言ったときの「ぼく」の気持ちを考えよう。 ○ 自分の考えを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それははじめじゃないか ・迷惑 ・自分の物を隠せばいいのに 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、善悪の判断に迷うような場面の写真を提示し、子ども達に話題を振る。 ・「ぼく」がいけないことだと判断したことをはっきりさせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「たからさがし」の後半部分を聞く。 ● それ以上言えなくなった「ぼく」はどんな気持ちだっただろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間はずれにされるのではないか ・黙っておけばばれないのではないか ● 「ぼく」は、簡単に言えたのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分だったら、「やっぱり、やめよう。」といえるだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・いけないことだと考えたのに、みんなの勢いに負けそうになる弱さに共感し、迷う気持ちもあることに気付かせる。 ・いけないと思ったら行動に移すことが、みんなが心地よく生活できることに気付かせる。 ・正しい判断に従う良さにつなげて、意見を肯定していく。

<p>展 開 25分</p>	<p>○ 自分だったら、「やっぱり、やめよう。」と伝えられるかどうか、自分の考えを道徳ノートにまとめる。その後、ネームプレートを使って自分の立場を示す。 立場を示した後、自分とは違う立場の人の意見も参考にできるよう全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達だからこそ、良くないことは止める ・正しいことはきちんと友達に伝える ・友達が他の人に迷惑をかけるのは嫌だ ・自分が「やめよう」と言って、みんなが考えを直してくれたらうれしい ・言えない ・直接は言えないけれど、先生に相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネームプレートを貼る場所は、「言える」「言えない」だけを準備し、どちらにしたらいいかわからない子がいたときに、「どちらとも言えない」という意見もあることを大切にする。 ・全体で交流した後、考えが変わったらネームプレートを移動させる。 ※正しい判断を伝えることで友達にも迷惑をかけず、自分も後悔せずにいられることに気付いたか。(道徳ノート・発言) ・どうしても言えない人は、やめさせるためにどんなことができるかについても考えさせる。
<p>終 末 10分</p>	<p>○ 日常生活の写真を提示し、自分だったらどうするかを考えさせ、道徳ノートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、「ぼく」以外の登場人物の様子についても考えさせる。

(3) 板書計画

